

献血直後に転倒、死亡

都内で30代男性、副作用か

日本赤十字社は七日、東京都内の献血ルームで先月二十六日に三十代の男性が献血の直後にトイレで転倒して床に頭部を強打し、今日六日に死亡したと発表した。男性はめまいや意識消失などの副作用「血管迷走神経反応(VVR)」を起した疑いがあるという。

献血後のVVRが原因とみられる転倒事故での死者は二人目。日赤は全国の血液センターに献血後の献血者の様子を十分観察するなど再発防止策を指示する「1111」の。日赤によると、男性は血小板などの成分だけを採取成分献血をした後、採血ベッドで約五分間休

憩。数分後、施設内のトイレで倒れているのが見つかり、頭部に外傷があった。その後搬送先の病院で死亡した。

日赤は、献血前の問診で異常がなく警察も「事件性はない」としていることから、男性はVVRを起して転倒した際に頭を床に強打した疑いがあるとみている。

VVRは、血液の体内循環量の変化や心理的緊張が原因で起こる採血副作用の一つ。症状はめまい、嘔吐(おと)と、意識消失、けいれんなど。

日赤によると、二〇〇三年度の全献血者約五百六十万人の中で、VVRが起きたのは約〇・七%の約四万四千人。このうち重症は約千五百人。

産経新聞 31

献血後転倒男性が死亡

日本赤十字社は七日、東京都内で献血した三十歳の男性が採血後にトイレで転倒し、頭部外傷で死亡したと発表した。

日赤によると、男性は九月二十六日午前、都内の献血ルームで血漿を四百二十四ミリ採血。ベッドで五分ほど休憩後、献血ルームと同じ階にあるトイレで転倒。頭を強く打ち、病院に搬送されたが十月六日に死亡した。

採血前の問診や採血後の血圧測定などでは特に異常はみられなかったという。男性はこれまで約七十回、献血していた。

VVRは採血の副作用の一つで、気分が悪くなったり、血圧が低下。採血開始から五分以内に発症することが多い。平成十三年八月、六十歳の男性が東京都町田市で献血後、駅のホームで頭を打って死亡し、VVRとの関連が疑われたことがあり、今回が二例目。

東京新聞 27

副作用? 献血後に転倒、死亡

日本赤十字社は七日、東京都立川市内の献血ルームで献血した三十代の男性が、直後にトイレで転倒して頭を打ち死亡した、と発表した。男性は献血直後に起きる副作用の血管迷走神経反応(VVR)を発症したとみられる。

男性は九月二十六日、成分献血をして五分間ベッドで休憩した後、同じビル内のトイレで行った。数分後「トイレで人が倒れている」という通報に、職員が駆けつけると男性が倒れていた。救急車で運ばれたが意識はなく、今日六日死亡した。

男性は過去に七十回近くの献血経験があった。日赤によるとVVRは献血に対する不安や緊張で神経のバランスが崩れ、血管が拡張し血圧や脈拍が急激に下がる症状。

昨年度の献血者のうち〇・8%の人がVVRを発症した。四年前には都内で、六十代の男性がVVRとみられる症状を起して駅のホームで転倒し、頭を打って死亡する事故が起きている。日赤は対応検討会を設置してVVRの原因究明や対策を話し合ったほか、献血者に献血後は休憩をよく取ることを、水分を多めに取るよう呼びかけている。

立川で30代男性 日赤「休憩と水分多めに取って」